川崎港の生きもの

調査で確認された生きものを紹介します。

海綿(かいめん)動物

水中の岩や海藻、動物の体などに付着して生活しており、海岸の磯場などの浅瀬から深海まで広く分布しています。海綿を乾燥させたものはスポンジとして活用されています。

海綿動物門の一種

形は円筒状、葉状、樹枝状など様々で、色も黄色、赤紫色、緑色など多種多様です。

体の中に含まれる骨片の形によって種が分けられます。

刺胞(しほう)動物

イソギンチャクやクラゲ、サンゴのなかまです。

体の表面に刺胞とよばれる毒針をもっており、毒で麻痺させたり、触手でからめとったりすることで餌を捕まえています。

ウミサボテン

個体が集まり、こん棒状の細長い群体をつくっています。昼間は10cm程度ですが、夜間には50cmほどに伸長します。

生物発光をする生物として知られており、刺激を与えると発光します。

軟体(なんたい)動物

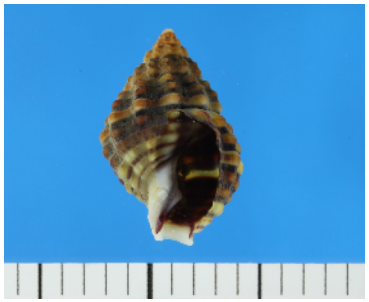
貝やイカ、タコのなかまです。

体は柔らかく、頭、内臓器官、足の３つで構成されています。多くの種は石灰質の殻をもっており、軟らかい体を守っています。

アラムシロ

2cm前後の巻貝で、全国の内湾の潮間帯や干潟などでよくみられます。

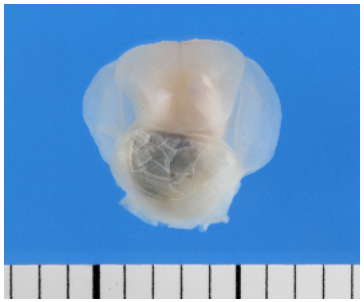
腐肉食性で、生物の死骸をみつけると砂の中から出てきて、むらがって食べます。



キセワタガイ

内湾奥の干潟から水深100mの砂泥底に生息します。軟体部の中に半透明で薄い半球状の貝殻があります。

肉食性でアサリなどの二枚貝を食べます。



クロシタナシウミウシ

3cm程度の小型のウミウシで、全国の海岸や岩礁帯に生息しています。

全身真っ黒で、ヘリの部分が黄色または青色がかっています。

夏になると、海岸の岩の上にオレンジ色の渦巻き状の卵塊を産みます。

ホトトギスガイ

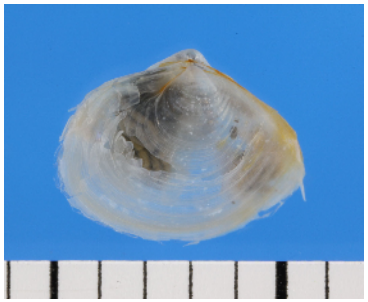
北海道南部から九州までの内湾の砂泥底に生息しています。海底上に大群で足糸を伸ばし、マット状に生息していることがあります。殻の表面には鳥のホトトギスにみられるような斑紋があります。

ミドリイガイ

東京湾以南の潮間帯から水深10m程度に生息しています。
東南アジア原産の外来生物で、日本へは1980年代に定着しました。現在では太平洋側を中心に、関東以南の広い範囲で生息しています。

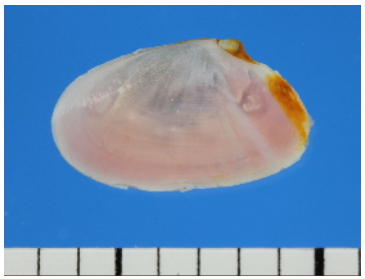
チヨノハナガイ

北海道以南の内湾泥底に生息しており、無酸素に近い状態でも生存することができます。
殻が薄く、半透明なので体内が透けて見えます。



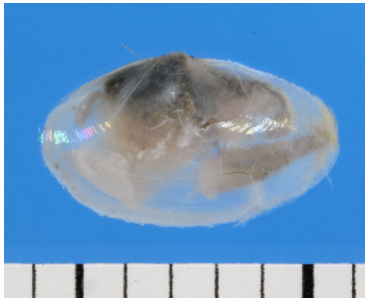
サクラガイ

全国の内湾の水深5～20mの泥底に生息しています。
殻の色はピンク色だけではなく、白色の個体もいます。
環境省レッドリストの準絶滅危惧種に指定されています。



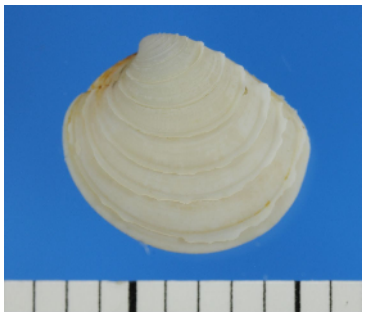
シズクガイ

北海道南部以南の内湾の泥底に生息しています。
殻は薄く、光沢があり、半透明なので、チヨノハナガイ同様体内が透けて見えます。



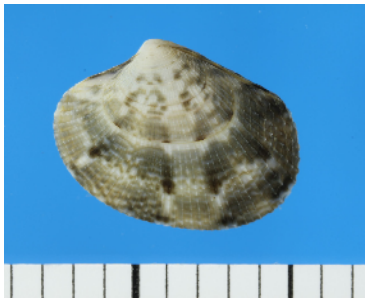
ホンビノスガイ

東京湾と大阪湾の内湾や河口の潮間帯から水深15mほどの砂泥底に生息しています。
北アメリカ東部原産の外来生物で、東京湾で急増しています。
食用として市場などで販売されています。



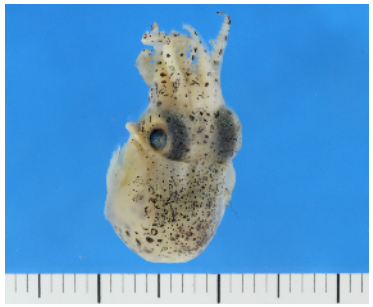
アサリ

全国の淡水の影響のある内湾の砂泥底や干潟に生息しています。
殻の表面は布目状で、模様は様々です。
日本では古くから食用とされており、重要な水産資源となっています。



ダンゴイカ

北海道以南の潮間帯から陸棚域に生息します。胴長2cm程度の小型のイカ類です。



環形(かんけい)動物

ゴカイやミミズ、ヒルのなかまです。
体はひも状で細長く、多くの環状の節をもっています。
海や川の中だけでなく、陸上にも生息しています。

ハナオカカギゴカイ

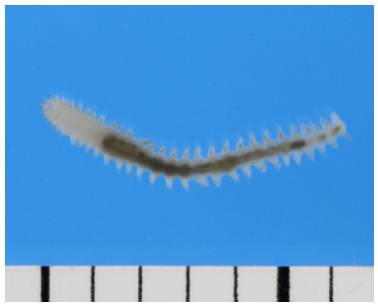
カギゴカイ科の一種で、シノブハネエラスピオやシズクガイなどとともによく採集されます。

アシナガゴカイ

ゴカイ科の一種で、千葉県から岡山県までに生息しており、かなり汚れた海底のヘドロの中にも生息しています。

ミナミシロガネゴカイ

シロガネゴカイ科の一種で、北海道から石垣島までの日本各地に生息しています。
指のような形のエラを持っています。



シノブハネエラスピオ

スピオ科の一種で、全国の砂泥底に生息しており、汚れた海底で多くみられます。
体の前方に羽状のエラをもっています。

ミズヒキゴカイ科の一種

ミズヒキゴカイ科のTharyx属の一種で、頭に2本の太い感触糸を持ちます。有機物量の多い海底でよくみられます。

イトゴカイ科の一種

イトゴカイ科のCapitella属の一種で、砂泥中に潜り込んで生活しており、汚れた海底で多くみられます。
見た目はミミズによく似ていて、円筒形の細長い体をしています。

節足(せっそく)動物

エビやカニのなかまです。
体は頭部、胸部、腹部の3部、もしくは頭胸部、腹部の2部から構成されています。表面は硬い外骨格でおおわれ、関節のある足を持っています。

シロスジフジツボ

津軽海峡以南の内湾の潮間帯中部を代表する種で、名前のとおり白色の肋があるのが特徴です。
低塩分への耐性があり、河口域などに多くみられます。

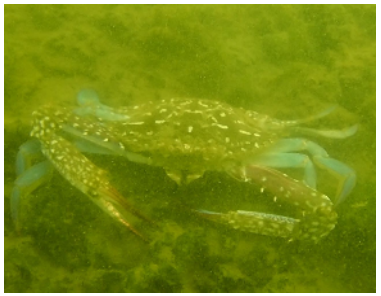
ドロクダムシ科の一種

ドロクダムシ科のMonocorophium属の一種で、第二触覚が大きく発達しています。
転石や海藻などの表面に泥で管状の巣を作ります。

ウリタエビジャコ

エビジャコ科の一種で、浅場の砂泥底に生息しています。
生時の体色は薄い灰褐色や半透明で、黒い色素がみられ、ほかのエビに比べて体全体が平らです。
肉食性でアミ類や魚の稚魚などを食べます。

タイワンガザミ



相模湾以南の太平洋側と山形県以南の日本海側の浅場の砂泥底に生息しています。
食用として用いられており、ガザミとともに「ワタリガニ」として市場などで販売されています。

イシガニ

石狩湾、東京から九州の日本海・太平洋岸に分布します。低潮帯から水深45mまでの砂泥底、礫底、岩礁帯などに生息します。

スネナガイソガニ

北海道厚岸湾から熊本県に分布し、低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息します。本種が多く確認されるような硬い砂泥質の干潟やアマモ場は減少しつつあります。

モクズガニ

北海道から九州、沖縄に分布します。はさみの部分に軟毛が生えており、「藻くず」が付いているように見えることが名前の由来です。秋に河口に降りて産卵し、幼生は海で成長し、初夏に稚ガニが川をのぼります。

棘皮(きょくひ)動物

ウニやヒトデ、ナマコのなかまです。
体は中心から5方向に放射状に伸びたつくりをしており、表面はトゲでおおわれています。
すべての種が海の中に生息しています。

スナヒトデ

北海道南部から東シナ海に分布し、潮間帯から水深120mの砂泥底に生息しています。長い管足をオールのように使い海底を滑るように移動します。アサリの稚貝など小型の貝類を食べます。

トゲモミジガイ

本州中部以南の浅場の砂泥底に生息しています。
背側は暗褐色で、体の縁全体に大きなトゲをもっており、砂をけるようにして移動します。
体内にフグと同じ毒を持っているため、食べると中毒を起こします。

イトマキヒトデ

北海道から九州までの浅場の岩礁や砂底で多くみられます。
背側は青色や暗青色で、赤色やオレンジ色の不規則な斑紋がみられます。まれに背側全体がオレンジ色の個体もみられます。

キヒトデ

北海道から九州までの水深5～20mの岩礁や砂底でみられます。
背側は黄色で紫色の斑紋があり、太くて短いトゲでおおわれています。
全体が黄色、または紫色の個体も見られます。

マナマコ

北海道から九州の浅場の転石帯に生息しています。青緑色や黒色をしています。
食用とされており、生食のほか「いりこ」や「このわた」として用いられています。

原索(げんさく)動物

ホヤやナメクジウオのなかまです。
一生あるいは幼生期に背索（せきさく）を持つ動物で、浮遊して生活するものや固着して生活するものなど、さまざまなタイプの種がいます。

シロボヤ

陸奥湾以南の日本海側と房総半島から鹿児島湾までの太平洋側の潮間帯下部に生息しており、内湾の汚れたところで多くみられます。
細長い楕円形で、後端で岩などに付着しています。